

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	地域施設計画小委員会	主 査 名：小篠 隆生 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (施設計画運営委員会)	委員長名：清家 剛 主 査 名：山田 あすか
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>地域施設の研究・計画方法等の進展のために、研究、設計・計画事例の発表の場を企画・運営するとともに研究者、計画・設計者の交流の促進を図る。</p> <p>初年度：第 40 回地域施設計画研究シンポジウムを 2022 年 7 月に開催する。</p> <p>2 年度：第 41 回地域施設計画研究シンポジウムを 2023 年 7 月に開催し、「地域施設計画研究 41」を発行するとともに、第 41 回地域施設計画研究シンポジウムを企画する。2022 年度に設置した過疎地域施設戦略 WG による事例調査・研究、地域施設計画シンポジウム時に PD を行う。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	<p>主査：小篠隆生 (北海道大学)</p> <p>幹事：山田あすか (東京電機大学)、細田智久 (島根大学)</p> <p>委員：天野克也 (東京都市大学)、池添昌幸 (福岡大学)、大島秀明 (福山大学)、落合正行 (日本大学)、下倉玲子 (呉工業高等専門学校)、高木真人 (京都工繊大学)、歳森敦 (筑波大学)、中井孝幸 (愛知工業大学)、中島美登子 (香川大学)、西野辰哉 (金沢大学)、横田隆司 (大阪大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>過疎地域施設戦略 WG</p> <p>当 WG の目的は、過疎地域指定自治体が全国の半数を超える日本において、過疎地域を先進事例と見做して、居住者の生活持続を可能とするための拠点地域などへの機能集約、施設の多機能化やサービスのモバイル化など、様々な進化した生活必需サービスの提供方法とその場のあり様を探求して、分散的な地域居住の可能性と限界を検討することである。</p>	
2022 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/j-000/j200-12/j230-12.html">https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/j-000/j200-12/j230-12.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	第 40 回地域施設計画研究シンポジウム 参加者数 87 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 地域施設計画研究 40 は、設計・計画事例部門を拡充しその効果で 71 編の掲載（前年より 32 編増加）と 6 年連続の増加となった。本領域の研究進展に成果をあげている。</p> <p>2. 過疎地域施設戦略 WG を立ち上げ、精力的に研究事例発表を行なっている。2023 年の第 41 回地域施設計画シンポジウムで活動成果に基づいた PD を開催する計画である。</p> <p>3. 第 40 回から設計・計画事例部門に発表された事例で、同意が得られたものについて、特別調査委員会「福祉起点型共生コミュニティと新しい地域拠点計画のあり方検討特別調査委員会」の成果として公開されている PROJECTS' CATA-LOG (<a href="https://pjcatalog.jp">https://pjcatalog.jp</a>) への掲載を行い、全国で展開される「地域施設」の試みを広く公開する取り組みを行なった。</p>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<p>1. 発表台数が大幅に増加したために、2 日間、1 会場でのシンポジウム開催が限界に来ている。プログラムを工夫する必要がある。</p> <p>2. コロナ禍で発表がリモートになっていたが、感染対策を施した上で、対面形式で実施できるような体制を考える必要がある。</p>